

東洋医学通信

<発行元>

阪神中国医学研究所

尼崎市長洲本通1-16-17

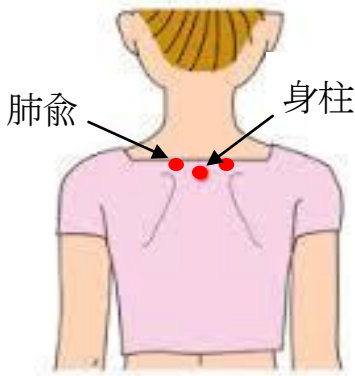
<連絡先>

06(6488)8149

夜泣き、かん虫、ちりけの灸と小児はり

子供の夜泣きにほとほと困りはてて、疲れて朝、眠れずに目を腫らしたお母さんの姿は今も昔もかわらないことでしょう。

「これ、ちりけのヤイトのあとなんです」と治療中、笑いながら背中を向ける患者さんのMさんの背には、みると大きなお灸の跡があります。ツボでいうと、ちょうど「身柱」というところです。



「私たちの地方では昔、子供は生まれたら皆、物心つく前にここにヤイトをしたんです」と、いつものお灸の話がはじまります。

ところで、ちりけとは山陰地方などでは、かん虫のことをいったようで、夜泣きやかん虫の子供の背中にある「身柱」というツボに灸することが広くおこなわれていたそうです。

出雲国風土記にでてくる大国主ゆかりの、琴引山では今でも「ちりけ封じ」と言って、かん虫の子供を連れて登るそうです。

関西では、昭和の初期ころまで、かん虫と言えば小児はりといふくらい虫きり、虫はりは一般的で、古くから小児はりの伝統があった大阪の針中野の鍼灸院では江戸時代には長者番付にのるほど患者さんが門前市をなしたといわれています。少しかわったところ

ろでは、穴村の墨灸といって今の滋賀県草津にはもぐさの成分を含んだ墨をツボに塗る子供のかん虫治療がたいへん盛んで、港をつくるほど遠方からたくさんの子連れのお母さんがいらしたそうです。もしかしたらご存じの方がいらつしやるかもしれませんね。

ちり、塵、散り、け、毛、気と言葉の由来は色々ありそうです。

思うに、子供は体温調整が未熟で熱の病気が多く、頭への血流が減って物忘れの多くなる老人とちがって、興奮しやすく頭に血が集まりやすいのではないのでしょうか。「身柱」というツボはちょうど自律神経でいうところの交感神経幹のあるあたりで、ここを刺激して集まりすぎた気を散らしたり、熱をさげたり、またその逆に、虚弱な子供の気を集めて元気にしたのではないのでしょうか。また、その隣には、子供の病みやすい「肺俞」という肺をよくするツボもあります。

最近になって、皮膚と脳や内臓

との深い関係が少しずつ解明されてきて、また今、薬を使わない小児の鍼灸治療が注目されてきています。

ところで、私の家にはたびたび夜泣きをする四歳の娘がいるのですが、「身柱」のツボあたりをトントンと、かたコリをとってやるように刺激してやるとしばらくしてスースーと寝息をたてはじめます。我が家のかん虫には重宝しているツボといえるでしょう。

いわけで、もし、お子さんのことでお悩みの方、もう少し詳しく知りたい方などは是非、当院迄ご相談ください。



鍼灸師 李賢